

## 1 トラック1 仲良し兄妹

お兄ちゃんと同じ職場で働くことになったヒヨちゃんに、終業後デートのお誘いをするお兄ちゃん。親しげなじゃれあいの空気で。

SE:内線の呼び出し音

SE:電話とる音

【3】

信「あ、お疲れ様です。社長室です。今お時間よろしいですか？  
秘書課の弓狩さんのスケジュールを伺いたいのですが」

【ヒロイン「お答えできません」】

信【笑って】なるほど、堅牢なセキュリティだ。  
では、社長が本日の終業後、一緒に食事に行きたがっていると、  
弓狩さんにお伝えいただけますでしょうか」

【ヒロイン「本日社長は会食の予定が入っております」】

信「えっ、会食？ 嘘、そんな予定入ってた？  
それ、キャンセルしてもよさそうな予定だったりしない？」

【ヒロイン「叔父様との会食ですよ」】

信「叔父様？ って、父さんの弟の方？ 兄の方？

【答え聞いて】弟の方か。それは……キャンセルできないなあ。  
休んでる間かなり助けてもらったし。  
僕の復帰祝いとお前の就職祝いを兼ねて食事でもって  
話してたやつだもんなあ……  
あれ今夜だったか。仕事と関係ないから忘れてた」

【3】

信「わかった、兄妹水入らずの食事はまた今度にしよう。  
叔父さんに、弓狩家は兄と妹で上手くやってるって、  
アピールしておかないとね」

【ヒロイン「上手くできてるかな……」】

信「心配しなくてもこの一ヶ月、お前は今までのどの秘書よりも  
僕を上手くコントロールできてるよ。  
もう何もできないヒヨコさんとは言えないなあ。  
ヒヨちゃんって呼ぶのも卒業かも。  
——なんて。お前がどんなに有能な秘書でも、  
僕にとっては一生かわいいヒヨちゃんだけど。  
店の予約何時だっけ？ 十九時？ じゃあ十八時半に  
エントランスで落ち合おう。またあとで」

SE：電話切れる

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31

## 1      トラック2      ただならぬ関係

2      会食で出た結婚話に浮かない顔のヒロインを慰める溺愛セックスストラッ  
3      ク。

6      【会食後、二人で帰宅する。猫をかぶって叔父と対話していたため、信矢  
7      は少し疲れた様子】

9      SE: ドア閉まる

10      SE: 信矢が靴を脱ぐ

12      【6      ヒロインに背を向けて】

13      信「あ〜……つつつかれたあ！」

14      親戚づきあいってほんと、仕事よりしんどい」

16      SE: 靴下の足音数歩

18      【信矢、数歩歩いてヒロインに振り向く】

20      【6      ヒロインに振り向いて】

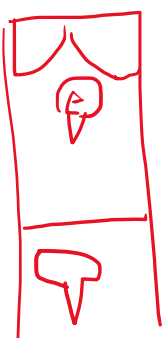
21      信「ヒヨも疲れただろ。先にお風呂入っておいで」

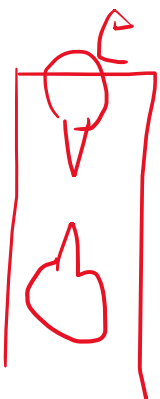
23      【ヒロイン、動かない】

25      信「ヒヨ……？      どうしたの、突っ立ったままで」

27      【信矢、ヒロインに歩み寄る】

29      SE: 近づく足音





【1】

信「何か言いたいことある？」

「お兄ちゃんに話してーらん」

【ヒロイン「結婚するの？」】

信「結婚？ ああ、今日叔父さんがちらっと言ってたやつ？

〃兄妹で仲がいいのは結構だが、お前たちもそろそろ

結婚を意識しないとな〃って。

【失笑】叔父さんが僕たちの関係を知ったら卒倒するな」

【ヒロイン「どういう関係？」】

信「んー？ 僕に言わせたいの？ 僕たちがどういう関係か」

【3 耳元】

信「お前が一番よくわかってるくせに」

【3 耳元】

信「お風呂、あとにしようか。

確認したいんだろ？ 僕たちの関係。

ほら、靴脱いで。ついでに服もぬいじゃおうか。

今、ここで。ほら、手伝ってあげるから」

SE:靴脱ぐ

SE:服を脱ぐ衣擦れ

信「ジャケットと……ブラウス。腕抜いて。そう、上手だ。  
ベルト、はずすよ」

SE:ベルト金属音

1 SE:スカート床に落ちる

2  
3 【3 耳元】

4 信「さて……どうかな。

5 玄関で妹を下着姿にさせる兄。

6 まだ普通の兄妹で言い逃れできるかな」

7  
8 SE:肯定の衣擦れ

9  
10 信「そうだね。これくらい全然普通の兄妹だ。

11 弟が死んで、ずっと心を病んでた妹を、

12 献身的に世話してきたお兄ちゃんだものね。

13 じゃあ、これは？」

14  
15 【耳舐め30秒程度お願いします】

16  
17 信「耳、くすぐったいね。これくらいなら兄妹でも、

18 悪戯でやるかな？

19 兄妹だったら当然、耳舐められて感じたりしないだろうけど……

20 ヒヨはどう？ まさか濡れたりしてないよね」

21  
22 信「下着、脱いで。広げて見せて」

23  
24 SE:下着脱ぐ音

25 SE:軽めの水音

26  
27 【1】

28 信「あーあ、濡れてる。お兄ちゃんに玄関で服脱がされて、

29 耳舐められて、こんな風に下着汚して……

30 僕にどうしてほしいの？

31 ちゃんと自分の口で言ってる」

【ヒロイン「舐めてほしい」】

信「そう、舐めてほしいんだ。

ちゃんと自分で言えて偉いね。いい子だね。

じゃあ、壁に背中つけて。両足開いて。

お兄ちゃんが、舌でお前のクリよしよししてあげるから」

SE:座る衣擦れ

【1 下から】

信「ふふ、良い眺め。舐められるの期待して、

ヒクヒクしてるの、よく見えるよ。

滴ってきそうなほど濡れてるし……

もしかして、このまま見てるだけで勝手にイクんじゃない？」

【ヒロイン「いじわるしないで」】

信「ごめんごめん。意地悪だったね。

いっぱい舐めてイかせてあげるから」

【クンニの吐息のみ30秒程度】

信「こら、足閉じない。腰も逃がすなって」

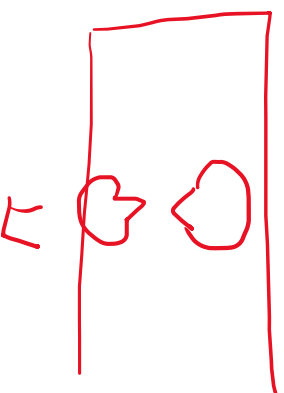
【舐めつつ以下のセリフ適宜入れ込んでください】

信「んー？ イキそう？ いいよいつて。

けど、ちゃんと立ってること。

できない？ じゃ、ぐずぐずまんこに指入れて支えてあげる」

SE:入れる水音



1 SE:指を出し入れする音

3 【1 下から】

4 信「こうやって中かき回されながら、クリ舐められると効くだろ。  
5 でっかい声でイクイクあえいで、玄関の外まで聞こえそうだな」

7 【クンニの吐息のみ30秒程度】

9 信「あはは、潮吹いた。まだだよ。まだやめない。

10 僕とお前の関係が何なのか確認したかったんだろ？

11 一回イクたびに思い出せるように、丁寧にいじめてあげるから」

13 【クンニの吐息のみ30秒程度。ヒロインが立っていられなくなって終わ  
14 りになる】

16 SE:ヒロインが床にへたり込む

18 【1】

19 信「おっと。あーあ、立ってろって言ったのに」

21 【7】

22 信「お兄ちゃんの言うことが聞けないなんて、悪い子だなあ。

23 こんなんじゃ、まだまだ思い出せないだろ？

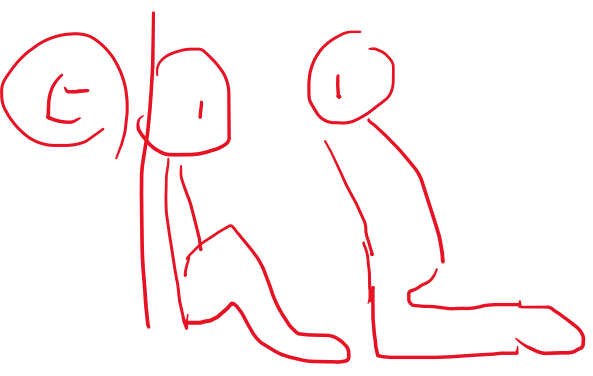
24 僕とお前の関係がなんなのか」

26 【信矢、ベルトを外してズボンの前をあける】

28 SE:ベルトかちやかちや

29 SE:ファスナー下す

30 SE:衣擦れ



【1】

信「ほら見て。お前があんまりえっちだから、  
お兄ちゃんも勃っちゃった。  
お似合いの変態どうしだね。  
これ、どうしようか。ヒヨちゃんの中に入れていい？」

【ヒロイン、頷く】

SE:衣擦れ※ほぼ裸ですけど髪が揺れる想定で

信「ふうん。いいんだ。兄妹なのに？」

【ヒロイン、頷く】

信「じゃあおいで。お兄ちゃんとセックスしよう」

【ヒロイン、信矢に抱き着く】

SE:衣擦れ

【3 耳元】

信「そのまま僕の上につて、自分から入れてごらん。  
やり方はわかるよね？  
毎日毎晩、泣いて嫌がっても僕に教え込まれたもんね」

SE:水音

SE:一気に入れる音

信「少し苦しそうに」く……っそんなに焦って、奥まで入れて。  
はは、キッツ……自分で腰振って、いいところにあててごらん」



2 SE:肉を打つ音(早めに)

3 SE:水音

【以下のセリフ、攻められる快樂に吐息交じりで】

【3 耳元】

信矢「すごいガツキ方だな。

ぎゅうぎゅう締めながら、そんなに激しくして。

上手だよ、ヒヨ。お兄ちゃんも気持ちいい。

イキそう？ そうだね。さっきさんざんイったから、

こんなの、すぐイっちゃうね。

【1】ほら、キスしながらイこう。舌だして」

【キスハメ1分程度】

【ヒロイン、絶頂して動きを止める】

SE:衣擦れ(大き目)

SE:水音&肉を打つ音ストップ

【1】

信「ふふ、すごいイキ方。

【軽くキスしながら】自分で上手にイけるようになったね。

どうやったらイけるかわかって偉い偉い」

【ヒロイン「まだ固い」】

信「んー？ そりゃ、僕はまだイってませんから。

だから……【7 耳元で】次は僕が動いていい？」

【7 耳元】

信「この、一番奥。ヒヨちゃんが、自分じゃ怖くて突けないところ、ガンガン突いて、頭真っ白になるくらい犯してあげる」

【ヒロイン「だめ」】

信「んー？ ダメじゃないでしょ。

ヒヨちゃんは好き勝手に僕の体使って気持ちよくなったんだから、僕も同じようにしていいよね？

そら、気絶しないようにがんばれよ……と！」

SE：肉を打つ音&水音

【がん突きの吐息30秒程度】

信「こーら、暴れるなって。

暴れるんだったら、こう……！」

【信矢、ヒロインを床に押し倒す】

SE：肉を打つ音&水音ストップ

SE：衣擦れ

SE：押し倒す

【1】

信「勝ち誇って」ほら、これでもう逃げられない」

SE：水音のみゆっくう



1 【1】

2 信「ゆっくり腰揺らしながら」こうした方が、

3 さつきより深く入るね。

4 わかる？ 僕のが奥に入るたびに、

5 ヒヨちゃんのおなか、ボコってなってる」

6 信「ヒヨちゃんの苦しそうな顔、可愛いな。

7 昔から、僕に意地悪されて泣いてるお前が、

8 かわいくてかわいくて仕方なかった」

9  
10  
11 【7 耳元】

12 信「僕のために泣いて、苦しんでくれるよね？

13 ひーよ」

14  
15 SE：肉を打つ音&水音

16  
17 【がん付きの吐息30秒程度】

18  
19 信「あー、くそ、締まるッ……これ、すぐイキそう。

20 なに？ 中でイってほしいの？

21 そっかそっか、お兄ちゃんに中出ししてほしいんだ。

22 いいよ。一番奥でね、濃いの出してあげるから」

23  
24 【終わりに向かって長めに吐息入れたのち、吐息のみで射精】

25  
26 信「【息整えつつ】はー……ひゅふふ……

27 玄関でがつつりやっちゃった」

28  
29 【信矢、体を起こして軽く身支度を整える】

30  
31 SE:衣擦れ

1 【1 手元を見て】

2 信「うわ、やばい。」

3 セックスしながらなんか振動感じると思ったら、

4 叔父さんから着信きてたの気づかなかった。

5 ちよっと折り返すから、ヒヨちゃん先にお風呂行つてて」

6

7 【ヒロイン「何の電話かな？」】

8

9 信「んー。多分お見合いしてみないか、みたいな話じゃない？

10 僕のかお前のかわからないけど。

11 食事で軽くジャブうってきたのもこれにつなげるためかなあ」

12

13 【ヒロイン「お見合い…」】

14

15 【1 ヒロインを見て】

16 信「心配しなくても、僕が上手いことやっておくよ。

17 さ、お風呂入っておいで。

18 ああ、待ってその前に。

19 ちよっと長めにキスして。

20 叔父さんと話すの、結構疲れるから気力チャージ。ね？」

21

22 【ディープキス長めにください】

23

24 信「ん、やばい勃った。

25 電話終わったらお風呂に襲いに行つていい？」

26

27 S E : 軽く叩く

28

29 信「いたっ……！ ごめんごめん疲れてるよね。

30 はいまた今度。じゃあ、あつたまつておいで」

31

32

### トラック3 お兄ちゃん是不機嫌

会社で信矢に呼び出されて、地下倉庫に向かうヒロイン。  
そこで叔父からの見合い話を断り切れず、「もう会社辞めて逃げてもいいかな」と思いつつある信矢に、試すように抱かれるヒロイン。

SE:内線の呼び出し

SE:受話器取る

【CG】

信「ああ、ヒヨ。今時間大丈夫かな。  
ちよつと第三地下資料室に行つて、  
とつてきてほしい書類があるんだ。  
えーと……五十年前に取引があつた会社の一覧かな。  
鍵はマスターキーで開くから。今すぐ、よろしくね」

SE:電話切る

SE:立ち上がる

SE:足音数歩

SE:ドア開閉

間

SE:廊下を歩く(響く足音)

SE:ドアの開閉

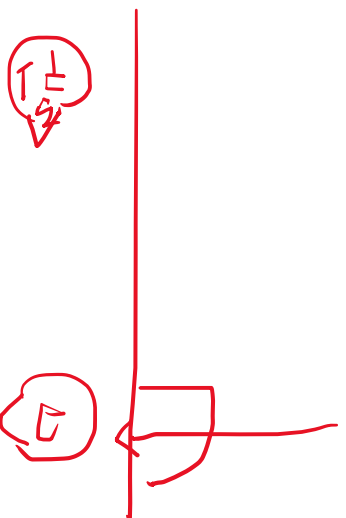
SE:電気のスイッチをつけようとし、つかずに何度かカチカチする

【信矢、室内でヒロインを待ち伏せしていて、ドアの横に立っている】

【15】

信「電気はつかないよ。」

「この資料室、ほとんど存在も忘れられてるから」



SE:驚きの衣擦れ

【9】

信「ごめん、びっくりさせたね。  
すぐに二人きりになりたくて、呼び出しちゃった」

【ヒロイン「仕事は？」】

信「仕事？ 仕事ね……どうしようかな、と思つてさ。  
例えばなんだけど……会社を全部売却して、  
遺産を運用しながらのんびり暮らす……とか。  
どう？ よさそうじゃない？」

【ヒロイン「急にどうしたの？」】

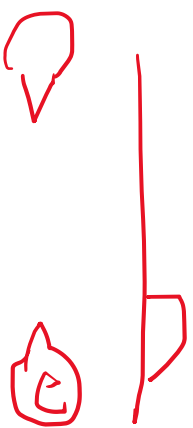
信「この前のさ、結婚の話。

お前の見合い話は潰せたんだけど、  
僕だけはどうも、逃げられそうになくて」

【ヒロイン、「わかった」という顔】

信「【苦笑いして】その顔……この件に関しては、  
お兄ちゃんが完全に楽観的でした。  
というか、浮かれてたのかもな。  
お前と過ごす毎日が幸せすぎて。  
跡取りのこともあるし、弓狩家の存続ということを考えれば、  
結婚が避けられないことくらい当然なのに……」

信「それで、ちょっと筋書きを考えました。  
僕とヒロちゃんの関係が、叔父さんにバレる筋書き」



1 SE:驚きの衣擦れ

2  
3 【6】

4 信「この部屋、誰も使っていないって言ったろ？」

5 けど、時々社員が抜け出して密会とかしてるんだよね。

6 だから僕とヒヨちゃんは迂闊にもここで密会して、

7 それを録画されてしまいます。

8 それが叔父さんの耳に入って、

9 発覚を恐れた叔父さんは僕を解任する——と。

10 どう？ 協力してくれる？」

11  
12 【ヒロイン「そんなことしないでいい」】

13  
14 SE:否定の衣擦れ

15  
16 信「くえ、嫌なの？」

17  
18 SE:近づいてくる足音

19 SE:壁ドン

20  
21 【1 至近距離で】

22 信「じゃあお前は、僕がほかの女と結婚しても平気なんだ。

23 それとも、お前が婿を取ろうと思ってる？」

24  
25 SE:否定の衣擦れ

26  
27 信「違うなら、協力してくれるよね？」

28 大丈夫、僕が仕事を辞めたところで、会社は問題なく続いていくさ。

29 父さんの兄弟だって、その子供たちだっている。

30 正直、叔父さんも僕の失脚のネタを虎視眈々と狙ってるんじゃない？

31 そこに助け舟を出すだけだよ」



【ディープキスの吐息30秒程度】

【1】

信「今からお前をここで抱く。

盗撮用のカメラはもう仕込んであるんだ。

僕とお前の顔がしっかり映る角度でね」

【ヒロイン「動画が拡散したら？」】

信「拡散？　したらいいさ。

僕とお前の関係が世界中に知れ渡って、

どこに行っても後ろ指を指されるようになればいい。

そしたら、どこか海外の田舎にでも引っ越そう。

まあ、世間体を大切にする叔父さんが、

何があってもそんなことはさせないだろうけど」

【ヒロイン「叔父さんを失脚させたりは……？」】

信「【あっけにとられて】は？　失脚……させるの？

叔父さんを？　僕が？

いや、さすがにダメだよお世話になってるのに！

っていうかお前、真顔でそんなとんでもない……

あっはははは……！　ダメに決まってるって！」

【ヒロイン「兄と妹のセックスシーンを見せつけるのもだめだと思う」】

信「やあ、まあ……そりやあ甥と姪がセックスしてる動画を

突然密告されたら、しばらく立ち直れないかもしれないけど……

いや、良い人なんだよなあの人。父さんの弟とは思えないほど」

信「んー……いや、確かに僕の勇み足かも。

やめよっか、録画見せつけ計画」

SE: 肯定の衣擦れ

信「まったく……本当にお前は、僕をコントロールする天才だよ。  
ほら見て、やる気まんまんだったからもうフル勃起してる。  
まあ、結婚問題はほかに解決策を探すとして……」

【3 耳元】

信「壁に手をついて、足開いて」

SE: 驚愕の衣擦れ

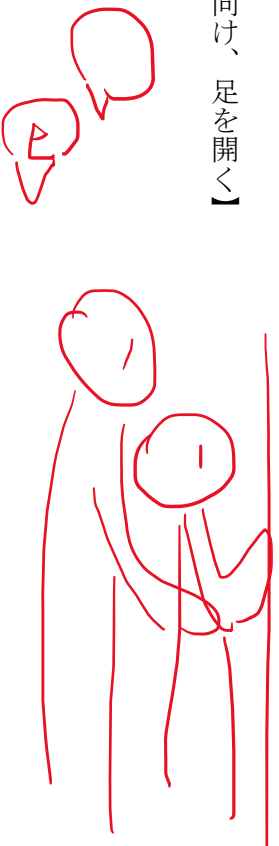
【1】

信「だって、この下半身じゃ部屋に戻れないでしょ？  
まさか社長秘書の弓狩さんは、  
社長に「トイレで処理してくれば？」なんて言いませんよね？  
ねー？」

【ヒロイン、しゅしゅ信矢に背を向け、足を開く】

SE: 衣擦れ

SE: 足音数歩



【4 背後から】

信「変態みたいなこと言うけど……  
実は、スーツ姿のヒヨちゃんに毎日興奮してたんだよね。  
職場でこんなことするのって、会社への背信行為だし、  
よくないよなーと思ってたんだけど……」

信「【声ひそめて】めちやくちや興奮する。」

ヒヨちゃんも、大きな声出さないようにね？」

【4 背後から】

信「【声ひそめて】人通りは少ないけど、誰も来ないわけじゃないから。  
僕とヒヨちゃんみたいな、セックス目的の不届き者がくるかもだし」

信「どう？ 見られるかもって思うと、興奮する？

今更それくらい、全然気にならないかな。

ブラずらして、胸触るね」

SE…衣擦れ

信「乳首、もうかたくなってる。

いやいやお兄ちゃんに付き合ってあげます、みたいな顔して、  
ちゃんと期待してるんじゃないか」

信「顔、こっち向けて。耳もなめてあげるから」

【3で耳舐め30秒程度】

信「ん？ 耳とおっぱいだけじゃもどかしいね？

下も触ってあげるから、ストッキングずらすよ」

SE:衣擦れ

SE:入れる水音

SE:指を出し入れする

信「あーあ、ぐちよぐちよ。

聞いえる？ この音。

早く中に入れて、入れてって、ヒヨちゃんがおねだりしてる音だよ」

1 【3】

2 信「わかる？ もう二本入ってる。ヒヨはこのさ、ほらこのへん。

3 指で届く一番深いところ、ごしごしされるの好きだもんね。

4 イきたい？ いいよいつて。でも、声は抑えて。

5 しいー……ね？

6 廊下、誰か通るかもしれないから」

7

8 信「我慢無理？ どうしても声出ちゃう？

9 じゃあ、お兄ちゃんがキスしてあげるから」

10

11 【ディープキス30秒程度】

12

13 SE:絶頂の衣擦れ

14

SE:水音ストップ

15 SE:拔く水音

16

17 信「上手にイけたね。

18 ほら見て、僕の手。お前が漏らした汁でべとべと。

19 お前が汚したんだから、お前がきれいにしなさい。

20 僕の指の一本一本を、爪の間まで丁寧にしやぶって。

21 そう、いい子だ」

22

23 【ヒロイン「入れてほしい」】

24

25 信「入れてほしいの？ あーあ、性欲でバカになってる顔だ。

26 お前のその顔、お兄ちゃん大好きだよ。

27 かわいくてかわいくてたまらない。

28 入れるよ」

29

30 SE:ぐれット外す

31

SE:ファスナート下す

32

1 信「声、我慢してて。奥まで、一気にいれるから」

2  
3 SE: 入れる水音

4  
5 【3】

6 信「すごい、とろつとろ。」

7 このまま突いたら、いきまくっちゃうんだろうなあ。

8 そしたらお前、またすごい声出すだろ？

9 だからお兄ちゃんが、このまま口ふさいでてあげる。

10 辛かったら嚙んでもいいから」

11  
12 SE: 水音

13 SE: 出し入れの衣擦れ

14 SE: 時々ベルトの金属音混ぜる

15  
16 【ゆっくりめに出し入れの吐息のみ1分程度】

17  
18 信「し、しい……！ っはは。

19 口ふさいでるのに、声、大きすぎ。

20 僕が動画見せるのは止めたくせに、

21 本当は誰かに見つけてほしいわけ？」

22  
23 【少し動き早めて吐息のみ1分程度】

24  
25 信「あー。締まる。言われなくても、イってるのよくわかるよ。

26 お兄ちゃんの精子ちようだいって、

27 ヒヨちゃんの子宮が媚びてるからさ。

28 おなかの一番奥のどこ、ノックしてあげる。

29 奥、軽くとんとん、ってするたびに……

30 またイった。

31 ヒヨがいくたびにぎゅーって締まって、僕も気持ちいいよ」

32  
33

1 【3】

2 信「ああ、くそ……声聞きたいな。そんな、我慢した声じゃなくてさ。  
3 いつもみたいな。

4 ん？ もうやだ？

5 そうだね、僕もそろそろ出したい。

6 イっていい？ ごめんね、少し激しくするけど、

7 声、我慢して」

8  
9  
10 【がん突きの吐息のみ1分程度のち、声抑える感じで終わらせてくださ  
11 っ】

12 【ヒロイン、何か違和感を覚えてもぞもぞ】

13  
14 信「【息整え】ん？ 何か変？ ああ……今回ゴムしてるから。  
15 中に出すと服汚しちゃうしね。」

16  
17 SE:拔く水音

18  
19 【c】

20 信「ほら、こんなに出了よ。

21 んー？ どうしたの、そんなに切なそうな顔して……

22 中にほしかったの？」

23  
24 信「ほんとに、お前はかわいいな【キス】。

25 カメラ回収してから戻るから、服整えて先に戻って」

26  
27 SE:離れていく足音

28 SE:ヒロインの衣擦れ

29  
30 【ヒロイン「その動画ほしい」】

31

32

【9】

信「え？ 今撮った動画って……ハメ撮りが欲しいってこと？」

SE:肯定の衣擦れ

信「あんまり画質はよくないよ？

部屋は暗いし、顔と何やってるかだけ映ればいいと思ってたから、  
アングルもそんなにこだわってないし。

あ、ハメ撮りが欲しいなら、ちゃんとスタジオ借りてやろうよ。  
コスプレえっちとかも楽しそうだし」

【ヒロイン「はしやがないで気持ち悪いから」】

信「あ、はい。ちょっと気持ち悪かったですね。そうですね。  
ちょっと待って、SDカード今渡しちゃうから。えーと」

SE…カメラいじる音

SE…近づいてくる足音

SE…衣擦れ

【1】

信「はいこれ

流出したら、僕もお前もただじゃすまないから。

【立てて】取り扱いには注意してね、社長秘書さん」

31

#### 1      トラック4    お見合い写真

2      自宅に突然大量の見合い写真が送られてきて驚く信矢。しかしそれはヒロ  
3      インに叔父が話を付けた結果であり、突然兄妹としての血を色濃く感じて  
4      動揺する信矢なのだった。

5  
6  
7      【ヒロインが廊下を歩いていると、信矢の部屋から苛立った声が聞こえて  
8      くる。電話口で叔父と通話中らしく、ドアをほそく開けて中の様子をうか  
9      がうヒロイン】  
10

11      SE:ヒロインの足音

12  
13      【信矢の声が徐々にフェードイン。信矢の声の聞こえ始めてヒロインの足  
14      音ストップ】  
15

16      【16    ドアの向こう】

17      信「【困ったように】だから、まだ結婚する気はないんだって」

18  
19      【ヒロイン、ゆっくりドアの前に移動】  
20

21      SE:足音数歩

22  
23      【8→6】

24      信「確かに、妹の容態も落ち着いたし、今はちゃんと仕事もできてるさ。

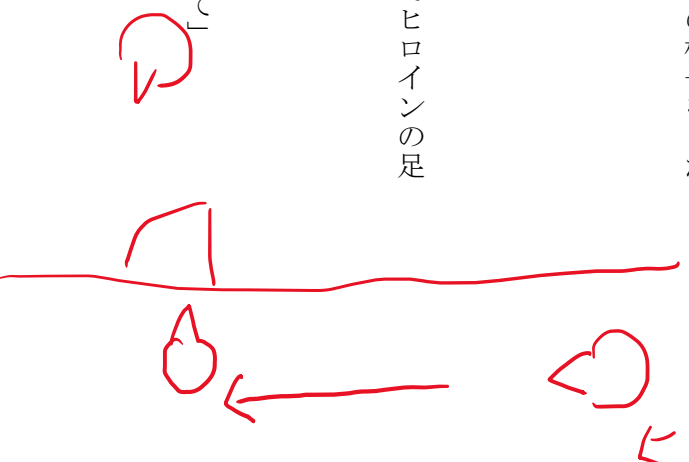
25      食事したときも落ち着いて見えたと思うよ。

26      でも、ようやくここまで安定したんだ。

27      叔父さんだって知ってるだろ？    真琴が事故で死んでから、

28      あの子がどれだけ苦しんだか」  
29

30      SE:ドアを少し開ける  
31



1 【9 うろろうしながら】

2 信「なのに、お見合い候補の釣書なんて急に送ってこられてもさ……」  
3 叔父さんの心配はわかるけど、ヒヨのためにも、  
4 もう少し時間をくれないかな」

5 【電話口「けど、そのヒヨちゃんが釣書きを送ってくれと」】

6 信「は？ え、ごめんどういうこと？」

7 ヒヨが叔父さんに電話したの？ 僕の結婚のことで？  
8 いや、知らないよ全然。聞いてないっていうか……  
9 ヒヨは叔父さんの番号知らないはずだけど……」

10 【電話口「会社で調べたと言ってたが」】

11 信「あー……まあ、そうだね。調べれば、出るね、普通に。  
12 それで、ヒヨはなんて言ってた？」

13 【電話口「それは本人に聞け。じゃあな」】

14 信「ちょ、ちょっと待って切らないで！  
15 【ぼそと】切りやがったあのジジイ」

16 S E : 衣擦れ

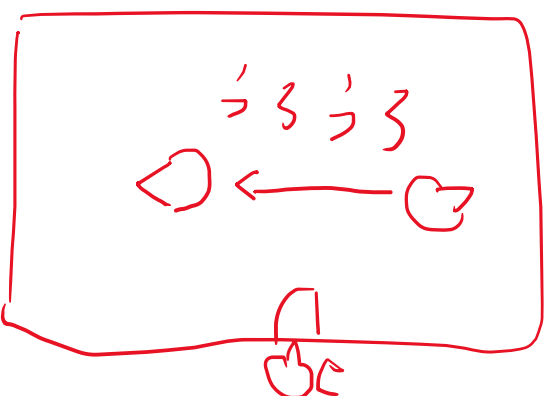
17 【ヒロイン、悪態をつく信矢に軽く嘖き出す】

18 【9 ヒロインに振り向いて】  
19 信「うわ！ いつからそこに」

20 S E : ドア完全を開く

21 S E : 足音数歩

22 S E : ドア閉める



1  
2 【ヒロイン「釣書届いたの？」と聞きながら信矢のデスクに向かう】

3  
4 SE:足音

5  
6 【6↓11】

7 信「届いたのって……そりや、届いたけど。  
8 十人分くらい……。その釣書の束、  
9 本当にヒヨが叔父さんに送らせたの？」

10  
11 【ヒロイン「叔父さんに動画見せた」】

12  
13 信「へえ、叔父さんに動画を……見せた!？」

14 あのハメ撮り!? ちょ、ちょ……話が見えないんだけど……!」

15  
16 【ヒロイン、信矢に振り向き「それでもいい女の人集めてって叔父さんに  
17 言った」と言う】

18  
19 【6】

20 信「それは、つまり……僕との結婚の条件は、  
21 僕が妹と寝てることを了承できる女だ……って、  
22 叔父さんに、伝えたってこと……?」

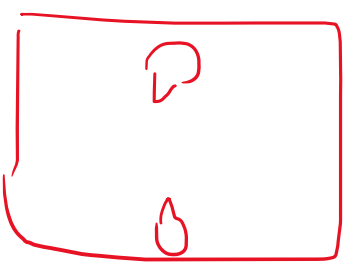
23  
24 SE:肯定の衣擦れ

25  
26 信「で、叔父さんは何も言わず、釣書を集めて送ってきたと」

27  
28 SE:肯定の衣擦れ

29  
30 信「【軽くひきつり】狂ってるな……」

31



1 【ヒロイン「鷹司家よりマシだって言ってたよ」】

2

3 【6】

4 信【「呆れて」そりや鷹司家に比べればどこだってマシだよ。

5 あそこは祖父の代から知ってるけど、

6 なんているか全員どうかしてるから……。

7 けど……そもそも、ヒヨちゃんが動画を叔父さんに

8 見せるなって言い出したのに、どうして急に、自分から」

9

10 【ヒロイン「盗撮を装ってリークはしない方がいいってこと」】

11

12 SE:衣擦れ

13

14 信「あー……なるほど？」

15 盗撮されるようなわきの甘さなら問題になるけど、

16 自分たちできちんと情報を管理するなら、

17 叔父さんも僕たちの関係を黙認すると、お前は思ったわけだ。

18 で、実際にそうだったと」

19

20 SE:肯定の衣擦れ

21

22 信【「深くため息つきつつ」なるほど……なるほどな……なるほど。

23 【脱力しつつ笑い】いや、参ったよ。

24 おまえってほんと……時々父さんそっくりで怖くなる」

25

26 【信矢、デスクに向かって歩きつつ】

27

28 SE:足音

29

30 【6→11】

31 信「豪胆で、向こう見ずで、＼いけるだろ＼みたいな

32 甘い見込みで物事を始めるくせに、実際にやり遂げるんだ」



1 SE:足音ストップ

2 SE:釣書の束を手取る

3  
4 【11 ヒロインを見て】

5 信「釣書き……一緒に見ようか。」

6 都合のいいお嫁さん探し、付き合ってくれるんだろ？」

7  
8 SE:肯定の衣擦れ

9  
10 信「立ったまま見るものじゃないし、少し座ろう。」

11 あと、お茶とお茶菓子がないと……

12 妹と妻選ぶするなんて、とても正気じゃいられないよ」

## トラック5 妻の条件

妻の条件を確定した信矢とヒロインの、仲良しセックストラック。

トラック4の続き。

ソファで横並びになり、妻候補を選び出した二人。

SE:ハードカバーの冊子をぱたんと閉じる

### 【3 前を向いて】

信「えー、では。弓狩家の嫁に相応しい人間の条件を確認します。

一つ、別居婚に同意すること。

二つ、僕と妹の関係を気にしない、または勘ぐらないこと。

三つ、弓狩家を利用して成功させたい仕事があること。

四つ、僕以外に、どうしても諦められない恋人がいること。

五つ、跡取りとして、僕の婚外子を養子に迎え入れること。

——こんなものかな？」

SE:肯定の衣擦れ

### 【3 ヒロインを見て】

信「ど、叔父さんが集めた釣書だけど……

なんと、なぜかそのあたりの同意が上手いこと取れてる

女性ばかりが選ばれているね。

これはどういうことかな？ ヒヨちゃん」

SE:ティーカップを手取る

SE:お茶を飲む

5  
5  
5

1 【3 ヒロインを見て】

2 信「なるほど、黙秘か。」

3 大方、叔父さんとお前で事前に条件を詰めたんだろ。

4 結局、叔父さんもいい人に見えて、あの親父の弟だったってことか。

5 まあ……仮にヒヨの妊娠が世間にバレても、

6 “名前を出せない大企業の御曹司に妊娠させられた”とか  
7 言っておけば、問題なく通る世界だもんなあ」

8  
9 【ヒロイン「鷹司家とか？」】

10  
11 SE:衣擦れ

12  
13 信【真剣に】いや、この話の仮定に鷹司家を出すのはまずい。

14 あの家は奥さんにガチってるから、

15 少しでも妻との関係を疑われるような噂が流れたら、

16 シンプルに命が危ない」

17  
18 【ヒロイン「全員独身だよね？」】

19  
20 SE:衣擦れ

21  
22 信「鷹司兄弟？ まあ、法的に独身と言えばそうかもね……」

23  
24 【ヒロイン「こわいね」】

25  
26 信「そう、怖いんだよ……」

27 まあ裏を返せば、大きな企業の実子は

28 どうかしてる恋愛や結婚に走りがちってことかも。

29 叔父さんは僕よりその辺詳しいだろうしなあ……

30 でも、さすがに驚いてたでしょ？」

31  
32 SE:仮定の衣擦れ

1 【3】

2 信「じゃあ……わりと『なるほど』って感じだったんだ。  
3 どうかしてるなあ、この一族ってホント」

4  
5 【ヒロイン「お兄ちゃんよりマシだと思う」】

6  
7 信「まあ、実の妹に手を出してる僕よりはマシかもね……

8 それじゃ、お見合い相手を決めようか。

9 ビジネス上の有利さで考えると、

10 この三人から選ぶのがいいと思うんだけど、

11 ヒヨちゃんは誰がいいと思う？」

12  
13 【ヒロイン「誰でもいい」】

14  
15 信「誰でもいいの？ 本当に？」

16  
17 SE:肯定の衣擦れ

18  
19 信「そっか。じゃあ……誰でもいいって叔父さんに伝えておくよ。

20 あの人が一番いい人を選んでくれるだろうから」

21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30

## トラック6 ウェディングドレス

ヒロインのウェディングドレスを見立てに来たヒロインと信矢。  
大々的な結婚式はあげられないが、二人きりでささやかなものをあげるため、二人で少しずつ準備を進めている。

【出先から急いでレンタルスタジオに駆け付ける信矢。スタジオには各ブランドのウェディングドレスが集められており、試着している最中】

SE…近づいてくる足音

SE…勢いよくあくドア

【13】

信「ごめん！ 遅くなった！」

もうドレスのフィッティング始まっちゃった？」

SE…大きな目の布を翻す

【信矢、ヒロインのドレス姿に一瞬息をのむ】

【6】

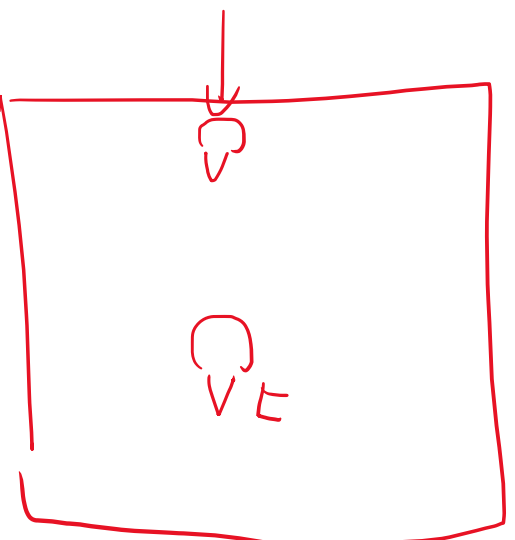
信「うわ……どうしよう本気で泣くかもしれない」

【信矢、「大げさ」と照れるヒロインに急ぎ足で歩み寄り】

【6→1】

信「大げさなもんか。本当にきれいだ。  
そのドレスに決めたの？」

【ヒロイン「まだこれが一着目」】



1 【1】

2 信「喜んで」これが一着目？ じゃあまだ十着くらい、

3 いろんなドレス着てるところ見られるってこと？

4 今日はいい日だなあ〜！ スタジオの照明もいい感じだし、  
5 カメラマンも手配したから、全部のドレスで写真撮ろうね」

6  
7 【ヒロイン「お兄ちゃんも似合ってる」】

8  
9 信「ああ、似合うかな。この燕尾服。

10 ちょっと着慣れなくて照れるけど、きれいなウェディングドレス着た  
11 妹との記念撮影なんだから、これくらいはね。

12 なにせほら、一応将来ヒヨちゃんの夫になる男の代わりに  
13 写真に写るわけだし。

14 【小声で】建前上はね」

15  
16 【ヒロイン「結婚式の方はどうだった？」】

17  
18 SE…衣擦れ

19  
20 信「僕の結婚式？

21 まあ、神前式で厳格にやる感じになるんじゃないかな。  
22 なんか、向こうも愛人と別途で結婚式挙げるらしいよ」

23  
24 【ヒロイン「似たもの夫婦？」】

25  
26 信「似たもの夫婦というか……いや、僕が言うのも何なんだけどさ。

27 こっちに対する興味のなさがすごくて。

28 “信矢さんですね。今後ともよろしくお願いいたします。それでは式  
29 の日程の調整に入らせていただきますね” って感じ。

30 神前式も向こうの提案なんだけど、理由が面白くてさ。

31 興味のない男との誓いのキスが無理だから……って」

32  
33 【ヒロイン「じゃあ安心だね」】

【1】

信「そうだね。安心だ。お互いの会社の相性もいいし。  
けど……今更だけど、嫌じゃない？  
形だけとは言え、僕が誰かと結婚するの。  
嫌なら今からでも取りやめられるけど……」

【ヒロイン「法的な結婚なんてどうでもいいから大丈夫」】

信「【思わず笑って】っはは！ どうでもいっか、そうか。  
僕たちにとって法律なんて今更だね。確かに。  
僕とお前は結婚できないけど……何度だって式を挙げよう。  
僕とお前と二人きりで。  
年に一度結婚式をやってもいい。  
新作のウェディングドレスが出るたびに着せてあげる。  
毎年婚約指輪と結婚指輪を贈るよ。  
指が足りなくなるくらい」

信「キスしていい？ いまここで」

【ヒロイン「人目があるよ」】

信「大丈夫、誰も見てないよ。  
ちよつとキスするだけだから」

【軽めについばむキス数回】

信「んー……だめだ。全然我慢できないかも。  
ちよつと抱き上げるよ」

SE：抱き上げる衣擦れ

1  
2 【7 まわりにむかって】  
3 信「すみません！ 妹が少し具合悪いみたいなので、  
4 控室で休ませてきます！ 皆さんも休憩してください！」  
5

6 【7 ヒロインを見て】

7 信「ね？ これでオッケー。」

8 ちよつとこの格好でイチャイチャしに行こう」  
9

10 間  
11

12 SE…衣擦れフェードイン  
13

14 【ディープキスの吐息10秒ほどお願いします】  
15

16 【1】

17 信「はあ……キスで口紅、取れちゃったね」  
18

19 【ヒロイン「ドレス汚さないでよ】」  
20

21 信「ドレス？ んー……まあ、汚れたら買い取ればいいし」  
22

23 【ヒロイン「ノンデリ」】  
24

25 信「の、ノンデリはひどいな……」  
26

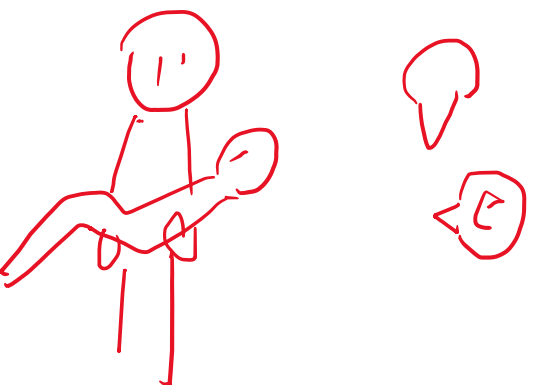
26 まあ……そうかも。

27 ヒヨがせっかくこんなきれいなドレス着てるのに、  
28

28 僕はもう、それ脱がすときのこと考えてる。  
29

29 悪いお兄ちゃんだろ？ キスするから、舌嚙んでお仕置きして」  
30

31 【ディープキス長めにください】  
32



1 【1】

2 信「舌、噛まないでよかったの？」

3  
4 【ヒロイン「もっと」】

5  
6 信「もっとキスしてほしいの？ それってさ」

7  
8 【7 耳元】

9 信「唇だけ？ ここにもキスしてほしいんじゃない？

10 舌入れてさ、こうやって」

11  
12 【耳舐め30秒程度】

13  
14 信「きもちいい？ 僕の指舐めてて。いくとき噛んでいいから」

15  
16 【耳舐め30秒程度】

17  
18 信「耳真っ赤。いきそう？ 体ぶるぶるしてる。じゃあ」

19  
20 【3 耳元】

21 信「次、こっちね」

22  
23 【耳舐め1分程度しつこくやってください】

24  
25 SE:大き目の衣擦れ

26 SE:噛む音

27  
28 信「いたた……【1】あー、結構強く噛んだな。

29 ん？ 謝らなくていいよ。僕のせいなんだから。

30 手袋しちやえば見えないし……

31 と、そろそろ戻らないと、ドレス選び切れなくなるな。

32 さ、一緒にもどって、お嫁さんごっこの続きしよう」

## トラック7

信矢の結婚式が終わり、帰宅する二人。

信矢の結婚式を見て結局嫉妬めいたものを感じたヒロインから信矢を襲い、めちやくちや濃厚に犯されるセックストラック。

時刻：夜

場所：車内

SE：高速道路の環境音

ヒロインと信矢、後部座席に並んで座っている。

【11 前を見て】

信「やーっと終わった。結婚式から披露宴まで、最低限でやってるのに一日仕事だもんな。

ヒロちゃんも、一日着物で疲れただろ。

今日、帰ったらゆっくりお休み」

【ヒロイン、無言】

【11 ヒロインを見て】

信「ヒヨ？ どうしたの、黙っちゃって。

眠いなら、僕の肩にもたれて寝ていいから」

【ヒロイン「やきもちかも」】

信「やきもち……？ 僕と彼女の結婚式で？

ほんっと……

【嬉しそう】かーわいい妹だなあヒヨちゃんは。

よしよしよし！ 僕にとってはお前が一番だって、わかってるだろ？

んー、でもそうだなあ。」

【7 耳元】

信「【ひそひそ】家に帰ったら、ちゃんとわからせてあげようね。  
嫉妬なんてして御免なさいって、  
泣いて謝りたくなるくらいしつかりと」

SE:肯定の衣擦れ

【7 離れて】

信「うなずいちゃうんだ。ふうん……  
じゃあ、手加減なした。最近ちよっと甘やかし気味だったし……  
早く家に帰りたいね、ヒヨ」

SE:車が走り去る音フェードアウト

間

SE:ノック

【6】

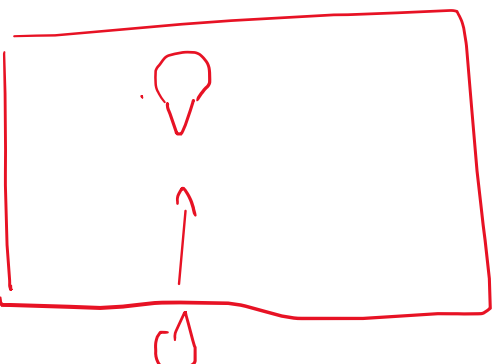
信「ぶいぞ」

SE:ドア開く

【ドアを開けると、信矢がソファに座っている。ヒロイン、信矢のほうに  
歩いていき、信矢にまたがる】

SE:ヒロインの足音

信「お風呂あがった？ じゃあ、僕も軽くシャワー浴びてこようかな。  
——と思ってるんだけど」



SE:ソファの軋み

【1】

信「余裕を見せて」そんな風に裸で乗っかられたら、  
ちよつと予定が変わってくるなあ。  
どうしたの？ 甘えたい気分？」

SE:肯定の衣擦れ

信「ふふ……すねた顔して、かわいいな。キスさせて。  
【軽くキスしながら】お風呂、入らなくていいの？  
結構ハードな一日だったから、汗臭くて嫌じゃない？」

SE:否定の衣擦れ

信「そっか。じゃあ、

【ここでヒロイン抱き上げる】このままベッドに行こう」

SE:衣擦れ

SE:ソファの軋み

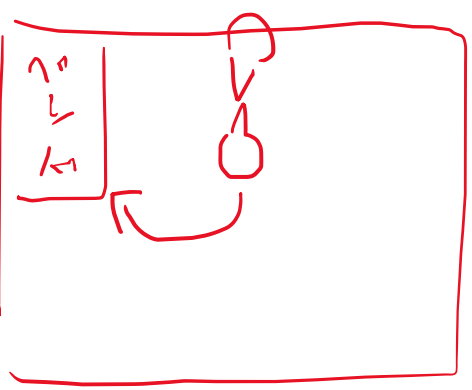
SE:足音

【2】

信「さつき車でさ、やきもち焼いてたって言っただろ？  
あれ、お前だけじゃないからね」

SE:ベッドにぶちっとおろす

【信矢、ヒロインにのしかかる】



1 【1】

2 信「気づいてた？ お前とぜひともお近づきになりたいっていう、  
3 男たちの視線にさ。  
4 結婚式は出会いの場とでも思ってるんだろうなあ。  
5 何人かと話してたよね。何を話してたの？」  
6

7 【ヒロイン「食事の誘いとか」】

8  
9 信「ふうん……誘われたんだ。  
10 食事に。【ヒロインの首筋や胸元にキスしつつ】それで？  
11 どう答えたの？ ぜひとも今度一緒にしましょう……って？」  
12

13 【ヒロイン「断った」】

14  
15 信「あは、よかったあ。もし誘いを受けたなんていわれたら、  
16 軽い嫉妬どころじゃすまなかったかも。  
17 ほら、足自分で持つて」  
18

19 SE:ベッドの軋み

20  
21 信「ヒヨちゃんの恥ずかしいところ、全部見えてる。  
22 濡れてるけど……お風呂で自分で濡らしてきたの？」  
23

24 SE:肯定の衣擦れ

25  
26 信「今日、お前に声かけてきたやつらは想像もしてないんだろうなあ。  
27 まさか弓狩家の令嬢が、兄とセックスするために、  
28 自分で濡らしてきちゃうくらい、いやらしい変態だつて」  
29

30 SE:ベッド外す

31 SE:ファスナー下す

1 SE:触れる水音

2  
3 【1】

4 信「あったかくて、ぬるぬる。すぐに入っちゃいそうだけど」

5  
6 【7 耳元】

7 信「入れていい？——いいよね」

8  
9 SE:入れる水音

10 SE:ベッドの軋み軽く

11  
12 信「挿入の余韻しばし」入れただけなのに甘イキしてる。

13 期待してたんだ。もしかして、結婚式の間中ずっと想像してた？  
14 僕にこうやって【動き出す】

15  
16 SE:出し入れ

17 SE:肉を打つ音

18 SE:ベッドの軋み

19  
20 信「激しく犯されて、イキまくることをさ！

21 脚、腰に回して。そうそう、腰振るの上手くなったなあ、ヒヨは。  
22 セックスが上手でえらいえらい」

23  
24 【ガン突きの吐息1分程度】

25  
26 信「っ……ああ、ちよつと締めすぎ。

27 ちよつと一回出すね。キスしながら、一緒にイこう。  
28 僕が出すまでいくの我慢だよ？ いいね」

29  
30 【キスハメ1分程度。キスしたまま射精の吐息ください】

31

【ヒロインと同時に絶頂する信矢】

SE:射精音

SE:ベッドの軋み激しめ1回

SE::水音系ストップ

【1】

信「すごい、中びくびくして、僕の精液搾り取ろうとしてる」

【信矢、射精直後にもゆるゆると腰を振りだす】

SE::水音ゆっくり

SE::優しめに肌が触れ合う音（パンパンというよりぺちぺち系がいいかなど）

【1】

信「んー？ もちろん、このまま続けるよ。」

今日は手加減なしって言っただろ？

足、ちゃんと腰に絡めておけよ。

腰逃がしたら許さないから」

信「こうやって、奥ゆるゆる、とんとんしながら……」

クリも指でぐりぐりされるの、好きだろ？」

SE::ベッドの軋み大きく

信「おっと、さわっただけでイっちゃった。」

けど、胸が寂しそうでかわいそうだなあ。

胸、指でカリカリしながらしゃぶってあげる。

ヒヨちゃんは、これされるのが大好きだもんねえ」

1  
2 【右がわの胸を舐める吐息1分程度。舐める合間に以下のセリフ挟んでく  
3 ださい】

4  
5 【やや下から】

6 信「乳首吸われて、かりかりかりひっかかれて……

7 僕が奥突くたびにイってない？

8 締め付けすっごい。このまま僕も出そうかも」

9  
10 信「んー？ クリくすぐられるの嫌？

11 刺激強すぎてつらいねえ。もっと強くいじめてあげる」

12  
13 信「ほら、腰逃がすなって。このままもう一度奥に出すから」

14  
15 SE: 激しく出し入れする水音

16 SE: 肉を打つ音

17  
18 【信矢、腰の動きを速めて射精に向かう】

19  
20 信「あー、出そう。腰もっと押し付けて、そう。

21 出すよ……ああ……っ！ 【射精】

22  
23 SE: 射精音

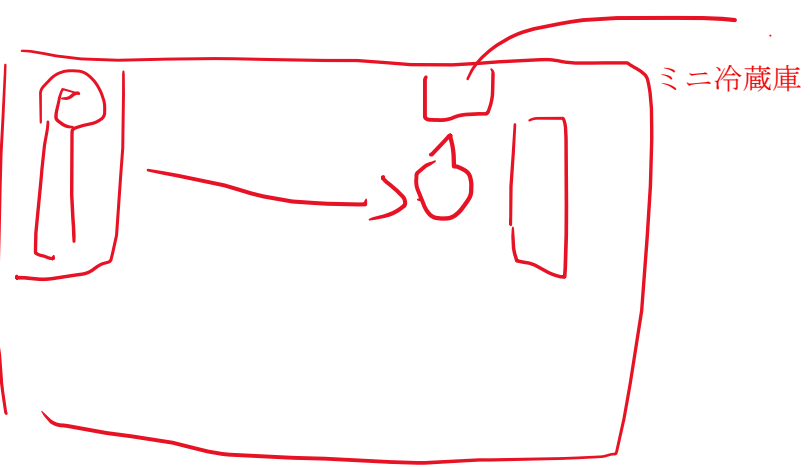
24 SE: 水音&軋みストップ

25  
26 【ヒロイン「のどかわいた」】

27  
28 信【「軽く息を整え」ん？ 水ほしい？

29 うっよ、とつてくる」

30  
31 【信矢、1から11方向に移動】



1  
2 SE: 抜く水音  
3 SE: 遠ざかる足音  
4 SE: 冷蔵庫開け閉め  
5  
6 【11 横を向いて】  
7 信「……ど。これも使うか」  
8  
9 SE: 引き出し開け閉め  
10 SE: 戻ってくる足音  
11 SE: ペットボトルのふたあける  
12  
13 【1】  
14 信「おまたせ。飲ませてあげるから、  
15 体起こして【ペットボトルから水ふくむ】」  
16  
17 【水を飲ませた流れのままデープキス30秒程度】  
18  
19 信「もっと飲む？ いいよ【水ふくむ】」  
20  
21 【水を飲ませた流れのままデープキス30秒程度】  
22  
23 信「さて……じゃ、続きしようか」  
24  
25 【ヒロイン「もういい」】  
26  
27 SE: 否定の衣擦れ  
28  
29 信「ん？ お前がよくても僕はよくない。  
30 おーっと！ 無理だよ。逃げられない」

【しかしヒロインが逃げようとするのを、うつ伏せに押さえつける】

SE:ベッドの軋み

SE:衣擦れ

【5】

信「どうしたのヒヨちゃん。お兄ちゃんに向かって  
かわいいお尻振ったりして。  
バックでぶち込まれたってことかなー？」

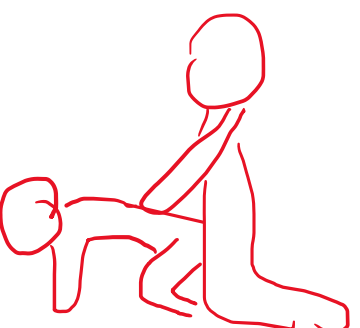


信「じゃ。遠慮なく入れさせてもらうね。  
よつと【挿入】」

SE:挿入音

SE:ベッドの軋み

信「よしよし。気持ちよくて腰抜けちゃうねえ。  
で、これなーんだ」



SE:ローターの振動音【音右耳に寄せる】

信「ヒヨのだーい好きなローターですね。

これ、クリに押し付けたらどうなるかな？」

SE:ローターの振動音【中央に戻す】

SE:少し暴れる衣擦れ

1 【5】

2 信「おー、締まる締まる。」

3 このまま五回くらいイってみようか。

4 まず一回。二回目もすぐきそうだな。

5 お、締まってきた……はい二回め。

6 やだやだ言ってもやめないよ。三回目。

7 んー……痙攣止まんないな。

8 一回イクの我慢しないと、

9 ずっと三回目カウントでイキ続けることになるよ？」

10

11 信「我慢我慢。我慢しろって、そら！」

12

13 SE:尻㊟へ

14

15 信「あっははは！ 叩かれてイってる。

16 今のは四回目に数えてあげる。

17 そっかそっか。ヒヨちゃんはマゾだから、

18 叩かれるとイッちゃうんだもんね。

19 ほら、もう一回」

20

21 SE:尻㊟へ

22

23 【ヒロイン、泣き出す】

24

25 信「んー？ お尻叩かれて泣いちゃったの？

26 よしよし、お尻赤くなっちゃったもんね。

27 じゃ、かわいそうなお尻にご褒美上げなくちや。

28 この、愛液でぬるぬるになったローターを」

29

30 【信矢、ヒロインのアナルにローター押し込む】

31

32 SE:挿入音

1 【5】  
2 信「あっさり奥まで飲み込んだね。  
3 おなかの奥、ブルブルふるえて気持ちいいね。  
4 僕もすごくいいよ。  
5 僕専用の最高級オナホって感じ。  
6 動くよ。オモチャみたいにきゅうきゅう鳴いて、  
7 僕を楽しませてね」  
8

9 SE:出し入れの音

10 SE:肉を打つ音

11 SE:ベッドの軋み

12  
13 【バックから突く吐息のみ1分程度】  
14  
15

16 【動きつつ】

17 信「わかる？ 僕が中の壁ごしにローターのあたり突くたびに、  
18 ヒヨちゃん派手にイってるの。  
19 もっと気持ちよくしてあげたいな……。  
20 ほら、体起こして」  
21

22 SE:水音&軋みストップ

23 SE:体位かえる衣擦れ

24  
25 【信矢、ヒロインの上体を引き起こしてロールスロイス体位に】  
26  
27

28 【3 背後から耳元に】

29 信「はいっして、首絞めながら犯してあげる」  
30

31 SE:首絞め

SE:出し入れの音



1 SE:肉を打つ音

2 SE:ベッドの軋み

3 【3 背後から耳元に】

信「首絞めると、ヒヨちゃんの中も締まるな。

ほら、緩めるから息して。いそいでいそいで

でないとほら……また絞めるから」

9 SE:首絞め

11 信「苦しい？ 苦しいね。苦しくて気持ちいいね。

12 つらいのが好きだよね？

13 愛してるよヒヨ、愛してる。

14 僕の妹……僕の、たった一人の。

15 あ、ああ……！！ 【射精】

17 SE:射精音

19 信「んー？ 気絶した？ 急に力抜けちゃったけど」

21 【1】

22 信「あは。うわひどい顔。よだれと鼻水でぐちゃぐちゃだ。

23 んー可愛い。かわいいな、かわいい」

25 【ディープキス10秒程度】

27 信「そのまま気絶していいよ。今日は凄く疲れたものね。

28 お兄ちゃんがお風呂に入れて、パジャマ着せて、

29 ベッドに連れて行ってあげる。

30 ——お前がまだ小さいころ、毎日そうしてたみたいに」

31

## エピソード

ヒロインがまことの墓参りに出向くと、信矢が先に来ていて驚く。  
信矢は三年で初めての墓参り。

信矢はまことに対して常に「邪魔だな」と思っていたが、今となって思い返してみれば血縁としての情が一切なかったわけでもなく、まことが事故にあったときは普通に慌てたし、その死を悼みもした。  
ただヒロインに対する感情が強くゆがみすぎて、肉親への正常な感情が隠されていたことが、最近になって思い起こされるようになっていく。

SE:ヒグラシの鳴き声フェードイン

SE:砂利を歩く音数歩

【6 ヒロインを見て】

信「ああ——来たのか。」

【墓を見て】真琴の墓参り」

【6 墓を見たまま】

信「お前が来る前に終わらせようと思ってたんだけど、意外と報告することが多くてさ。」

【自嘲で笑い】何せ、三年も墓参りに来られなかったから」

信「年甲斐もなく……意地になってたのかもな。」

僕と違って、真琴はすべて持ってるように見えて」

【ヒロイン「男兄弟っぽいね」】

【6 ヒロインを見て】

信「え？ ああ……そうかもな。」

男兄弟っぽい。うん。たしかに。

ヒロちゃんだってなんでも持ってたけど、

別に嫉妬とかしなかったし、全部与えてあげたいと思ったもんなあ」



【9 墓を見て】

信「けど真琴はさ……【少し困って】あいつ僕のこと好きだったよなあ。

僕が明らかに面倒くさそうにしてるのに、

小さいころから兄ちゃん、兄ちゃんって。

ヒヨに意地悪されたときも、泣いて「信にいちやーん“て」

【ヒロイン「お兄ちゃんはちゃんと公平だったし」】

信「そう？ 本当に公平だった？ だいぶ妹びいきだったと思うけど。

でも、まあ……弓狩家の長女ともあろうものが、

弟の顔に落書きなんかしたらねえ？

さすがに僕もメッて言わないと。

僕が怒らないと、父さんの雷が落ちただろうし」

信「時々……本当に時々思うんだ。

あいつが生きてて、僕とお前は普通の兄と妹で……

そういう風な生活が続いてたらどうなってただろうって。

まともな兄と妹として、今も平和に暮らしてたのかな」

信「けどね。けど……

そういうのも、もしかしたら悪くなかったかもって、思うよ。

心から」

SE:肯定の衣擦れ

信「そう思えたから、ここに来られた。

真琴が事故にあった時、僕は本当に怖かったんだ。

真琴が死んだらヒヨが悲しむとか……

そういう打算的なこと全部頭の中から消えて。

ただ、真琴の無事を祈ったよ」

1 【9 ヒロインを見て】

2 信「お前は——それを信じてくれる？」

3  
4 SE:肯定の衣擦れ

5  
6 信「そっか。【墓を見て】聞いたか？ 真琴。

7 信じてくれるってさ。

8 三年前は僕に「お兄ちゃんがやったの？」とか聞いてきたのに」

9  
10 【ヒロイン、怒って信矢に歩み寄り、たたく】

11  
12 SE:数歩足音

13 SE:信矢をたたく

14  
15 【1】

16 信「いたたた！ 冗談冗談！ ごめんってごめん！」

17  
18 SE:叩く音ストップ

19  
20 信「ねえヒヨ。あのさ。なんというか……

21 えーと……ごめん？ いや違うな……。

22 ありがとう、かな。うん。

23 ありがとうだ」

24  
25 【ヒロイン「なにが？」】

26  
27 信「んー？ そうだな。いろんなことに対してだけど、

28 一番は——

29 【立てて】僕をまだ、お兄ちゃんのままでいさせてくれて、かな」

30  
31 SE:セミの声フェードインアウトしてややエモさ出してください

32 END